

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		人間発達学部
科目名称 [英語名称]	社会学 [Sociology]				実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○
科目コード	120510	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	1-4年次
教員氏名	林田 康子				学位授与の方針 との関連	DP1(2), DP2(1), DP3(2)	
授業概要	この授業は、家族社会学の知見に基づいた「家族」をテーマとする社会学の授業である。今日、家族は従来の、われわれが当たり前と考えていた家族のあり方から変化してきている。では、どのように変化しているのか、変化を促したものは何か。さらにわれわれ個人は、どのような社会的状況のなかで、どのように行動、あるいは適応して生きているのか。この問いについて考えていくのが本授業の目的である。晩婚化・未婚化、少子化、貧困、就労やLGBTなど、現代の家族に関する社会現象や社会問題を手がかりに、家族と社会的状況との関係を考え、改善の方向を探る。主な分析視点はジェンダーである。						
関連する科目	子どもの発達と現代社会、教育と社会、学科専門科目区分「子どもと地域」の各科目						
授業の進め方と方法	毎回の授業にて、アクティブラーニング型の授業を行う。基本的には講義の形態をとるが、授業中は随時学生に質問をして対話型の授業を行ったり、データの分析をしてもらう。また、各テーマ(各章)の終了時に小テストを行い、問題提起されていることを再考してもらう。						
授業計画	第1回 ガイダンスおよび社会学の方法 第2回 社会学の方法と社会調査 第3回 現代家族の概要と分析視点1: 家族の多様化と社会制度 第4回 現代家族の概要と分析視点2: 近代社会の編成原理とジェンダー 家族を読み解く視点について学ぶ。 第5回 「近代家族」の成立1: 家族の地域的多様性と歴史的变化 第6回 「近代家族」の成立2: 法制度と産業構造の変化 家族のあり方の変化と社会的状況の関係について学ぶ。 第7回 家族・貧困・福祉1: 貧困の概念、貧困の女性化 第8回 家族・貧困・福祉2: 日本の社会保障制度の特徴 貧困と社会保障制度の関係について学び、今後の課題を考える。 第9回 結婚1: 結婚の現状と制度、および未婚化現象 第10回 結婚2: 離婚の現状と制度、パートナーシップの多様化 結婚・離婚に関する現象と制度について学び、今後の課題を考える。 第11回 就業と家族1: 男女の働き方の違い 第12回 就業と家族2: 労働慣行・制度 就労と労働慣行・制度との関係について学び、今後の課題を考える。 第13回 妊娠・出産・子育て1: 少子化の原因、育児の現状 第14回 妊娠・出産・子育て2: 生殖補助技術、養子・里子 科学技術の発展や政策に着目し、子育てや親子関係を考える。 第15回 個人・家族・親密性のゆくえ 国際結婚、LGBTについて学び、多様化する家族の承認・包摂について考える。						
授業の到達目標	1. 家族に関する個人の行動や社会現象を理解できるようになる。【知識・理解】 2. 家族や個人がおかれている社会的状況を理解できるようになる。【知識・理解】 3. 社会的な概念や理論を理解できるようになる。【知識・理解】 4. 自分が出会うさまざまな家族や個人の行動を分析できるようになる。【汎用的技能】 5. 家族生活・社会生活・社会問題を改善する方向性を示すことができる。【人間力、社会性、国際性】						
授業時間外の学修	【予習】授業中に次回の授業範囲を示すので、教科書を読んで概要をつかみ、わからない点を整理しておく(約1時間)。 【復習】各章の終了時に小テストを実施するので、毎回授業内容を振り返り、要点を整理しておく(約1時間)。 【授業期間中】教科書に記載された引用・参考文献を読み、予習復習に役立てるとともに、家族社会学の知見や発想について理解を深めておく(約2時間)。						
課題に対するフィードバック	小テストは提出後の授業で、学期末試験は提出後、解説を行う。			評価方法	学期末試験80点、小テスト20点		
テキスト	岩間暁子ら, 2015, 『問いからはじめる家族社会学——多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣。						
参考書	教科書で紹介、引用されている諸文献。 アンソニー・ギデンズ, 2009, 『社会学』而立書房。						
備考							